

2024年度愛知芸術文化センター運営会議図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 2024年7月5日（金）午後1時から午後3時まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 中会議室
- 3 出席者 委員8名（森田委員長、飯田委員、大谷委員、織田委員、小野内委員、坂口委員、中井委員、二之部委員）、加藤館長、渡邊副館長、新川サービス課長、各グループ課長補佐8名、文化芸術課職員2名、その他県図書館職員（事務局）2名
- 4 傍聴者 なし
- 5 取 材 なし
- 6 館長挨拶
- 7 議事要旨 以下のとおり

【議題1 委員長の選出について】

- ・図書館専門委員会開催要領第2条第3項に基づき、委員の互選によって森田委員を委員長に選出した。
- ・図書館専門委員会開催要領第3条第4項に基づき、委員長が中井委員を委員長代理として指名された。

【議題2 2023年度事業の点検・評価について】

事務局から資料1を説明。

森田委員長

欠席委員の意見を事務局から報告してください。

事務局

廣田委員からSNSの発信について、「発信数は増加しているが閲覧数は減少している。フォロワー数も約2,500で少ないとは言えない。発信内容やハッシュタグ等は適切であると感じる。閲覧数を目標値まで高めるには、検索での表示が増えるような話題やリプライなどへの拡散が重要ではあるが、図書館として節度ある投稿を考えることは担当者にとって負担となるため、目標値の見直し（現状維持）などでもよいのではないかと感じる」という御意見をいただいています。

森田委員長

議題2について御意見、御質問があれば御発言をお願いします。

坂口委員

SNSの閲覧数が策定時の現状から15%ぐらい減っていますが、この数字をどう考えていますか。また、目標値の閲覧数90万件というのはどのように決めたのでしょうか。

また、利用者満足度の数値に関して、満足していない15%の方々の意見というのはどういうものなのでしょうか。

事務局

SNSの閲覧数の目標の立て方は、策定時は1つの発信に対し880くらい閲覧数があったため、少し上乘せし、1つの発信に対し900くらいの閲覧数があるだろうということで設定しています。

利用者満足度について、満足されてない方の回答で一番多かったのは、「求めた資料がなかった」でした。貸出中であったとか、そもそも所蔵がなかったのかと思われます。その他には、「落ち着かなかった」などの御意見がありましたので、サービスの改善に努めていきます。

飯田委員

SNSについて、今活用しているFacebookやYouTube、X（旧Twitter）に加え、中高生から人気の高いInstagramの活用も検討していただくと良いと思います。

事務局

今後の検討とさせていただきます。

織田委員

事業の数値目標、その実績、評価、評価コメントに違和感があります。9つの項目のうち4項目がB評価となっています。B評価というのは、「80%以上100%未達成で、予定通り進んでおり概ね順調に進捗」ということですが、B評価4つすべての実績が前年度割れしています。80%の達成とは20%の未達であり、20%未達かつ前年度割れで、「概ね進捗、順調に進捗」という評価は、おかしいと思いますが、いかがでしょうか。

渡邊副館長

目標値は策定時の数値を基準としています。前年度を下回ったものを分析、何が足りないかを検討し、今年度の事業で改善できるように取り組んで参ります。

織田委員

愛知文化芸術振興計画年次報告書の評価の目安がそもそもおかしいのではないかと感じています。例えばB評価のところは、「達成率90%以上、かつ前年度実績を上回る」とするなど、もう少し目標を上げるべきではないかと感じました。

加藤館長

大変貴重な御意見と受け止めています。この計画を作ったのは、ポストコロナを見据えてという頃で、昨年度は図書館に対する皆さんのニーズがどこにあるのかを考えながら事業計画を作り、手探りで取組を進めてきました。御意見を踏まえ、もう少しシビアに時代を捉え、しかるべき評価を考えていかなければいけないということを感じています。

中井委員

利用者数や貸出冊数は、公共図書館も大学図書館も大体どこでも同じような形で少しずつ減っており、前年を上回るのは結構ハードルが高いと思います。数値

目標が1つの目標となっていますが、中身が伴わないと問題があると思います。県立図書館は、県内全域の図書館へのサポートや、県としての資料収集が大きな役割であるため、その活動が貸出冊数や利用者数になかなか反映されないのだろうと思います。新しく来る人が増えているとか、リピーターがどれぐらいいるかなどとあわせて評価した方がいいと思います。

今、愛知県図書館が取り組んでいることに対して県民の方がどう反応されているかを、量的な評価と質的な評価をあわせ、色々なことから分析するといいと思います。

大谷委員

市町村立図書館経由で貸出を利用する学校数に関して、私も以前学校経由で資料を借りたことがあります。22校から28校に拡大という学校数のカウント方法を教えていただけますか。

私の感想ですが、生徒たちがICTを活用し、デジタルで情報を得るような動きが増えているのは事実です。一方で、今学校では、探究的な学びをしなければならないというところで、書籍を用いて深い学びをしっかりとやっていこうと働きかけています。学校の教諭が書籍の重要性をしっかりと生徒に伝えていく必要があると感じています。

事務局

学校数の対象は、県立の高等学校や特別支援学校です。

大谷委員

それは、決められた冊数をまとめて借りた学校の累計でしょうか、学校が制度に則ってお借りしたときの学校数の累計でしょうか。

事務局

累積ではなく、制度を利用することについて、市町村立図書館と調整ができた学校数が28校となっています。

織田委員

数値目標は、一般的には新規入館者や貸出冊数などが出てくるとは思いますが、県図書館の目標に入っていないのは、コロナ禍の影響であえて抜いたということでしょうか。

事務局

第一期基本的運営方針の指標では入館者数も入っていましたが、非来館者向けサービスにも力を入れているため、第二期策定の際、他の評価できる数値を選ぶということで、あえて入館者数は外しています。統計は取っており、流れは見ています。

織田委員

公的サービスはとても難しいと思います。民間企業はいかに効率よく利潤を上

げるかに尽きるわけで、そのためにKPI（重要業績評価指標）を設定して、3年計画などで回していくわけですが、この数値目標が民間のKPIと同様だとするのであれば、どこにプライオリティを持ってやっていけばいいのかというのはとても重要です。そもそも愛知県図書館は誰のために、どういう目的のためにあるものなのかを考えなければならない。

中井委員

基本的には、市町村立図書館では持っていない、買えない資料、あるいは県として資料価値の高いものを残しています。「調べる」という広域参考図書館としての役割が一番強いので、そんなに利用率が急激に上がるということはないと思います。貸出サービスをしているので、貸出数が指標には上がってきますが、都道府県立図書館の大きな役割は、やはり資料価値の高いものを残すことです。だが調べる人がいないと資料をなかなか活用できないところでは。

織田委員

先日、地下1階の書庫を見学したが、見応えがありました。

加藤館長

県立図書館としての使命は、県民にとって身近な市町村立図書館をいかにサポートするかということだと思います。とはいえやはり、来館者数を増やす、貸出数を増やすということも目指していかなければいけないと思います。

そのために具体的な取組に落とし込んで数値目標を9項目立てたところですが、例えば市町村立図書館の県図書館に対する満足度というようなことを入れるのも考えられます。今後試行錯誤しながら考えていきたいと思っています。

二之部委員

市町村立図書館からの感想となりますが、蔵書検索アクセス数や県内図書館等への協力貸出数について、いわゆる愛蔵くんと相互貸借便は、なくてはならないものとなっており、愛知県図書館が県内図書館を支えていることは間違いないと思っています。

また、色々な電子書籍があるなかで、県図書館がKinodenを入れたのには大きな意義があると思っています。長久手市の近隣で、コロナの交付金を使って電子書籍を導入した自治体がありましたが、長久手市は導入できなかったもので、県図書館が長久手市民も利用できる電子書籍を、そしてやや専門的な書籍のあるKinodenを入れているのがありがたく、これからも継続していただきたいと思っています。

飯田委員

電子書籍について、Webサイト上で、高校生や子育て中の方など対象を絞った推薦本の掲載や、月間別人気ランキングの発表なども検討して欲しいと思います。

事務局

電子書籍の案内をしているページなどに、ご提案いただいた利用者の対象別のリストや月間別人気ランキングの掲載を検討していきます。

森田委員長

数値目標は、職員の努力でカバーできるものと、他の人が頑張ってくれないといけないものがあり、達成しやすいものとしづらいものがあると思います。

織田委員の意見が核心を突いていて、図書館としての役割・目的が分かりにくくなっている中で、模索しながらその時々で方向を変えていくことが必要だと思う。アンケートの評価については、量的評価だけでなく質的評価も出せるような、数値以外の回答も載せられるといいと思いました。

また、県図書館の役割として、他の市町村では得られないものが手に入るという一方で、インターネットによって距離の壁は乗り越えることができるようになったものの、愛知県図書館は結局名古屋市にあるため、遠方からの来館が難しいところもあり、来館者を伸ばすことを目標とすることにどういう意味があるのか。全員を満足させることは難しいと思います。

小中高生の読書離れの問題もあり、図書館は情報を得る場でもありますが、図書館にとってYouTubeなどがある意味最大のライバルになってくるかもしれないと思います。今、図書館としてどう進んでいくのかには答えはない状態だと思いますが、今までやってきたアンケートを残しつつ、尋ねる内容を新たに変えていくというのは検討の余地があると思いました。

森田委員長

意見が大体出たということで、この議題に関しては原案どおりで了承ということではよろしいでしょうか。

織田委員

今年度以降の課題ということで理解しました。

【了承】

【議題3 2024年度の事業計画について】

事務局から資料2を説明。

森田委員長

欠席委員の意見を事務局から報告してください。

事務局

廣田委員からの意見について、「興味深い新規事業などに期待しております。読書バリアフリー推進チームの設置に大変期待しております。あいちラストワン・プロジェクト運用について、収蔵場所の確保等に苦慮されているかと存じます。改正された資料保存ガイドラインに対する参加館の反応などについて、追って報告等があれば望みます。また、NDLのデジタルコレクション個人送信が拡充していることなどから、電子化資料での利用機会を踏まえた保存判断も良いのでは

ないかと思えます。オンラインでの複写物提供（公衆送信）について、参考とした他館状況（利用規程等）を踏まえた24年度の実施見込み、および利用者への啓蒙（利用喚起並びに著作権尊重等）活動などについての予定など、現状でのおおよその内容についてご説明があれば幸いです。」のご意見について、先に事務局から回答します。

事務局

あいちラストワン・プロジェクトは、県内公立図書館で1冊しか所蔵がない図書を協力して保存する目的で行っています。各館で除籍せざるをえなくなったときに県図書館に移管いただく仕組みであり、県図書館での受入れにあたり、ガイドラインに沿って資料の選別を行っています。県図書館のスペースの問題や、各市町村立図書館の事務作業が増えるという指摘もあり、昨年度から資料を厳選する方向でガイドラインを改正しましたが、これに対する意見等は特になく、順調に運用されています。国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスが拡充している状況を考慮し、当該サービスで利用可能な図書は、県図書館で受入れするかを個別に判断し、保存対象から除くことができる扱いとしています。

複写物の公衆送信サービスについては、コロナ禍で図書館の休館が相次いだ時期に、図書館資料を利用しやすくしてほしいというニーズが顕在化し、著作権法が2021年5月改正、2023年6月1日施行となりました。この改正により図書館資料の複製物をデータ化してメール等で送信するサービスができるようになりました。図書館がこのサービスを始めるには、「特定図書館」となり、送信する対価を補償金として納める必要があります。補償金を取扱う指定管理団体が、特定図書館となるための届出を受け付けることとなっております。指定管理団体が、特定図書館の届出受付をする準備が整っていないため、当館としては、なるべく早くサービスを開始したいと考えていますが、指定管理団体の準備状況を注視しながら、事務作業の細かいところを詰めているところであります。サービス開始のめどが立ったら、利用者に広報し積極的にサービスを進めていきたいと考えております。

森田委員長

議題3について御意見、御質問があれば御発言をお願いします。

小野内委員

「読書バリアフリー推進チームを中心に、読書に障害がある方に対する読書活動の推進」に新規項目で取り組むとあります。我々も障害者の生涯学習を推進していきたいところですが、図書館の取組も生涯学習の推進につながっていくところもあるため、具体的にどういったことをやっていくのかを教えていただきたいと思えます。

事務局

図書館の利用に障害がある方はさまざまです。愛知県図書館では、視覚障害者資料室があり、視覚に障害のある方へのサービスを中心に今まで行ってきましたが、読書にバリアがある方は他にも考えられます。そういった方々に対し全館的に環境を整備するためチームを発足しました。また、愛知県図書館の障害者サー

ビスの周知・啓発が不足しているのではないかという意見もあり、今年度は主に啓発活動を計画しています。7月から館内で読書バリアフリーに関する展示を行うほか、館外の施設で啓発イベントなども実施したいと考えています。

小野内委員

もう1点、紹介になってしまいますが、別表の3ページに、子供読書活動推進大会、高校生ビブリオバトル愛知県大会を2023年度実施したとあり、2024年度も実施予定ですが、2024年度は、高校生ビブリオバトル愛知県大会に加えて、中学生ビブリオバトル愛知県大会を同日に開催します。もし可能であれば書き加えていただければと思います。

織田委員

すでに前年度は目標をクリアしているのに、今年度目標を前年度同様にした項目が3件あり、その理由の1つが、デジタルアーカイブのシステムを入れ替えるからそれに注力したいという説明でした。デジタルアーカイブ公開数以外の、例えば蔵書検索アクセス数は100万回以上超えているのに目標を前年度と同様にしていますが、もう少し目標は高く持った方がいいと思います。

事務局

蔵書検索アクセス数は、2023年度に急激に上がっており、理由は特定できていません。また、2025年3月の図書館システム更新により、アクセス数のカウント方法が変わることもあるため、新しいシステムが入った後の変動を注視し、2026年度に見直していきたいと考えています。

織田委員

企画展示イベントの実施回数や、職員研修の受講者数も、昨年度大きく上回ったのに今年度戻ってしまっています。せっかく実績が上がったのだから、さらに高みを目指してもいいのではないかと思います。

加藤館長

昨年度はポストコロナで、一時離れたユーザーに戻ってきて欲しいと、イベントや企画展示を相当頑張って進めてきました。蔵書検索アクセス数は特異な事情があった可能性があるため、複数年トレースしてみないといけないと感じており、今後数年上昇傾向なのにまた元に戻すのかという話はその時に出てくると考えます。イベントは、職員が相当無理してやったところがあり、その他読書バリアフリー推進チームなど新しい取組も進めていくため、バランスを見ながら、数値はどの辺が適正であるかということ、数年トレースして見ていきたいと思えます。

飯田委員

情報発信・交流活動の拠点としての図書館として、館内に県立学校の企画展や学内の読書活動の風景がわかるような掲示物の展示など、学校の情報発信についても検討していただければと思います。また、小中高生などの若い人たちが、同

世代に本のすばらしさを伝える主体的な活動の促進を検討いただければと思います。例えば、まず小中高生を対象に、館内のサービスや本のすばらしさが体感できる講座を開催し、この講座の終了後、学生ボランティアやジュニア司書、読書コンシェルジュといった形で、長期間にわたって継続的に図書館のサービスに関わっていただきます。小中高生の具体的な活動は、彼らが作った基本計画書に沿って行っていただきます。これは他県でも行われていて、例えば学生向けの推薦本の作成、図書館通信の作成、学生向けの企画展示の実施、ポップ作成等が可能性として考えられます。こういったことを検討していただければと思います。

事務局

当館では中高生の職場体験の申込が非常に多くなっています。最近学校でキャリア教育とよく言われていることが背景にあると推測しますが、年々増えており、その機会に中高生に、図書館の見学や仕事の体験をしてもらっています。その際本の紹介文を書いたポップを作っていただき、それを本と一緒に掲示して他の方にもお披露目するなども日頃から行っています。若い方へのイベントなど、御提案いただいたことを参考にしながら事業を進めていきたいと考えております。

森田委員長

問題は、本が好きじゃない人にどうやって関心を持たせるかということになると思いますが、それについてのイベントのご提案をいただきました。

中井委員

基本的運営方針が2027年度まで決められており、基本的にはそれに沿ってということだと思うが、事業計画でもう少し何か考えていただいてもいいかなと思うことがあります。

新しく石川県立図書館が開館しました。建築的にもユニークで賛否両論あると思うが、開館時から職員も色々取り組んでいます。その一つとして、職員一人一人が展示棚を受け持ち展示をするものがあります。利用者に対して、企画展示とはまた違った、アナログの本の魅力みたいなものを伝えるような展示をやっています。そういったことをやられてもいいかなと思います。

情報発信の交流拠点としての図書館は、1階のYottekoを基軸にすると思います。コラボなどを前向きに考えられてもいいと思います。また、石川県立図書館は、最上階の壁面に閉架書庫で眠っていた書籍を並べています。こういう本を所蔵しているというのも分かるため、県図書館が持っている古い資料をどんどん見せていくのもいいと思います。

デジタル技術について、昔のものをアーカイブしてだけでなく、今の愛知県の様子を後世に残していくこともしなくてもいいのか、と思います。それは県の図書館がやる仕事じゃないかもしれませんが、沖縄県の恩納村はキオクバンクというやり方で取り組んでいます。キオクバンクは、観光客などが撮った写真を図書館と複合している観光案内所が集約し、定期的にマップナビというところに出して、その写真を地域資料として残すというものです。滋賀県の愛知川でやっている町のこしカードに近いが、それをデジタル媒体で保存する取組です。愛知

県独自の取組として何かそういったことをされてもいいと思います。

長寿命化改修工事を行って、今後30年、50年と使い続けることになると思います。改修工事のときに、「今新しい図書館を建てると、こういうサービスをやれるだろう」ということを考えてもいいと思います。「図書館は静かに」ということじゃなくなってくるので、話してもいいところはちゃんと吸音するといった防音工事も含めて考えるといいと思います。

今やっていることを否定するわけではないですが、県立図書館の役割を考えながら、これから何をやっていくべきかということ、少しずつ戦略的に考えていただきたいと思います。

事務局

今のものを残すというお話で、今年2月、愛知県内の行政資料の中で、デジタルでしか出ていないものを、愛知県図書館のサーバーに保存して、愛知県図書館のホームページから公開する事業を、まだ試行ですが始めています。まだ103件ぐらいと小規模ですが順次広げていこうと考えています。愛知県と県内の市町村のポーンデジタルを残そうとしています。

加藤館長

書籍になっていない、デジタルでしかないものが最近非常に多いので、それをどんどん残していこうという取組みです。

中井委員

図書館以外にやらないと思うので、そのような取組を積極的にやっていただき、県図書館の存在感をアピールして頑張っていただきたいと思います。

織田委員

すべての県民の知りたいに答える図書館について、利用者の裾野を広げていくことや、県民の読書離れ・本離れを解決する方向に持っていくのが県図書館の1つの使命とするなら、来館者へのアンケートだけでなく、未利用者にどうすれば入館してもらえるか、本を借りてもらえるかに着目する必要があると思います。ジュニアやヤングアダルトの方を引っ張ってくるのもとても大事だと私も思います。一方で、県図書館ならではの資料として、企業の社史を始めとした愛知県の産業にまつわる資料を多く保存しており、私も仕事で活用しています。そういう資料が県図書館にあることを知らない人が結構多いと思うので、そのPRも事業の1つとして検討すべきだと思います。例えば、愛知県や名古屋市の経済団体に働きかけて、企業人に役立つ資料を紹介するリーフレットを作って置いてもらうなど、できることは結構たくさんあるので、せっかくある資料を活用してもらうことを考える必要があると思います。

もう1つが、今図書館は、サードプレイスとして場所の意義が大きくなっています。私も石川県立図書館に昨年行きましたが、椅子1つとっても幾種類もあり、気分に合わせて色々なところに座ることができます。愛知県図書館は自習席がたくさん並べてあり、無味乾燥というイメージが拭えないので、サードプレイスとしてのあり方も、長寿命化の改修のときに検討いただければと思います。

事務局

来館されていない方のご意見については、2022年の県政世論調査でお尋ねしています。

愛知県図書館を使わない方の理由は、「遠くて利用できない」が圧倒的に多いです。また、県内の市町村立図書館を通じて利用している方もいらっしゃるということがわかりました。県図書館が力を入れるべき市町村立図書館への支援として、「県図書館の資料を地元の市町村立図書館で借りたり返却したりするサービスをより便利にして欲しい」や、「県立学校に資料の貸出や読み聞かせを行うなど、児童生徒の読書活動を推進して欲しい」というように色々な要望があることが見えています。今後も県政世論調査などを利用して広く意見を汲み取っていきたいと思います。

織田委員

色々な利用のされ方があるのですが、せつかくある資料をPRして、利用してもらった方がいいのではと思いました。

加藤館長

愛知県は産業県であるため、当館には社史など産業にまつわる資料のストックが相当あります。これを生かさない手はないだろうということで、私が経済関係の役員会議でPRしたりしています。我々の一番の強みを存分にアピールして、ファンを増やしていくことにつなげていきたいと思います。一番の強みを我々の言葉で語っていくということを職員自ら意識してやっていければと思っています。

坂口委員

例えば「社史がこんなにある」など、うちの媒体を使ってくださいでもいいです。広報の結果は展示の記事が多いですが、県図書館ならではの特色ある事業のPRも1つの手だと思います。経済団体などきちっとした団体にアピールするのもいいですが、マスコミを上手に使っていただければいいと思います。毎回リリースする必要はなく、取材を受けたことのある記者や、私を通じていただければよいと思います。ただマスコミは、何度も同じ報道はできないため、YouTubeで動画を作っておくなどもいいと思います。

事務局

長寿命化改修工事については、これから基本設計に向けて予算要求をしていく段階です。既存施設の活用が基本ですが、図書館として、利用していただく方を呼び寄せることを目指すべきであるため、どこまで予算を認められるかはありますが、色々な視点から人を呼び寄せられる施設を目指し、予算要求をしていきたいと考えています。

森田委員長

中井委員から出た展示の仕方の話と、織田委員の言われた無機質だということろが繋がったように思えました。他館も参考にしながら面白い展示の仕方を考え

ていくというのはいいと感じました。

また、中井委員から、今の愛知県を保存していく取組として沖縄県の例をご紹介いただきました。

吸音設備の話で、昔の図書館はおしゃべり厳禁でしたが、最近では、それでもできる場所としてグループ学習席があったり、飲食もある程度可能になっていたりするなど、図書館の姿はどんどん変わってきています。人が集まる場所としても活用して欲しいというところがあり、色々な工夫をして企画展示などをされています。1つのアイデアとして、同じ趣味を持っている人たちが集まる場として、図書館を使うというのもありかと思いました。

森田委員長

議題3について、原案のとおりお認めいただけますでしょうか。計画を立てることも達成することも大事ですが、書いてないことをやっていくことも必要だと思えます。その辺を努力していただけたらと思えますがいかがでしょうか。

織田委員

先ほどの未利用者に対するPRのところ、館長自らが経済団体に対し動いていただけるのであれば、そこに加えてもいいと思えますがいかがでしょうか。

加藤館長

追加させていただきます。回り始めたきっかけは、Bookサポーター制度と雑誌スポンサー制度のPRを行うことでしたが、産業県の県立図書館における強みのPRも含め、図書館のあらゆることをPRします。

森田委員長

では、一部修正ということで、細部に関しては、私と事務局の方に一任していただけたらと思えます。

【了承】

【議題4 その他】

森田委員長

議題4その他として、本日の議題以外に関する事で何か御意見等があれば、御発言をお願いします。

織田委員

資料費が2015年度比で46.8%減と約半分になっています。年々減り今後も減り続けていくように読み取れます。年度予算の中でやりくりしなければいけないという実情は十分理解していますが、資料費の減少が資料の陳腐化に直結していると思えます。これを何とか反転させるようなことは考えていないのでしょうか。

日本の図書館も自分で稼ぐことも考えていかなければと思えます。カフェを誘致している図書館が国内でいくつも見られていますが、ここの県図書館1階のホ

ールは、ポツポツとテーブルが置いてあるだけでもったいない使い方をしていきます。例えばそのスペースをカフェに貸出して賃料を資料費に充てるなど、稼ぐことも考えていくべきではないかと思います。会議室を一般に有料で貸出すことなどは、市町村立図書館でも見られていますので、そういうことも、資料費のアップのために、一考するに値するかと思います。

加藤館長

県の財政の中で色々やりくりしての予算化となり、当然増額要求という話もありますが、ご指摘いただいたように、要求するばかりでなく、我々も汗をかいていくことが必要だというのが経済団体へのPR活動のきっかけであり、それは引き続き行いたいと思います。我々が自らしっかりと努力して資料費を確保することをやっていきたいと思います。会議室の扱いなどは色々な制約があるため、そこは検討課題として承っておきたいと思います。やれることはやっていこうと考えています。

中井委員

鳥取県立図書館が、何億という資料費をまだ確保しています。すごく努力されていて、県立図書館が、議員たちに「わからないことがあったら図書館に聞いてください」と、積極的に働きかけています。「図書館は使える」と議員自身に思ってもらえないと予算にしてもらえないので、そういう働きかけもあるのだと思います。意外と県庁職員や議員が図書館を使っていないので、その人たちに対しての出張サービスは見習うべきかと思います。

新川サービス課長

愛知県の場合は、議会の建物の中に議会図書室があり、司書職員1名を必ず配置しています。その職員を通じて、愛知県図書館の本の貸出やレファレンスなども行っています。また昨年度、県議会のDX化で、全ての議員にノートパソコンを配布することがあり、その時に図書館の利用カードで電子書籍も使える旨案内し、希望された議員には利用カードを作成しました。今後効果が出てくればと思っています。

森田委員長

情報過多の時代に、この人に聞くと教えてくれるよという人がいて、それが図書館だということだと、図書館の価値が高まるかと思います。

本日は、多くの御意見ありがとうございました。皆様からの御協力により無事終了できたことに感謝を申し上げます。

加藤館長

貴重な御意見をありがとうございました。我々の本来目的を絶えず自問自答しながら、コロナ禍明けての過渡期でまだ手探りの状況もありますが、しっかりやるべきことをやっていきたいと思います。

【閉会】